

あかさき

北九州市立赤崎小学校
校長 田村嘉浩

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び 健康でたくましく生きる児童の育成」

- あいさつをする子ども
- かんがえる子ども
- さいごまでがんばる子ども
- きまりを守る子ども

明日は冬至。二学期も、ありがとうございました！

22日(土)は冬至。これから昼の時間が伸びていくので、古代には冬至が一年の始まりでした。



今学期、学習に行事にと、どの学年も大変盛りだくさんでした。各学級は、その学級目標に向かって力を合わせて伸びていきました。終業式では、各学級目標をもう一度確認し、それぞれが伸びたところを認め、褒めました。

「あゆみ」をもとに、すべての子ども、一人一人に声をかけたいところですが、それは、かないません。どうか、ご家庭で声かけをお願い致します。

「あゆみ」には、今学期伸びたところ、よかったところが必ず書いてあります。まず、「がんばっているね。」と認めてあげてください。「がんばれ。」「がんばりましょう。」よりも、「がんばっているね。」と声かけをしてください。

大人でも、仕事や家事を精一杯やっているときに「もっとがんばれよ。」といわれると、どうでしょうか。子どもも同じです。子どもなりにがんばっているところがあります。相手を認めて、ねぎらう言葉をよく使うようにしてはどうでしょうか。「それでは甘い！」と思われるかもしれません。

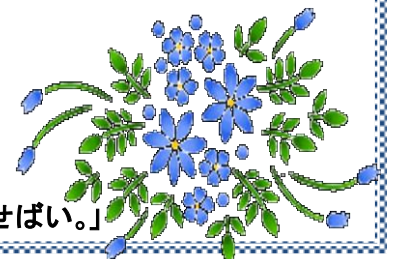
子どもは、甘えと反抗を繰り返しながら成長していきます。「甘え」とは「依存」のこと。「反抗」とは「自立」のことです。子どもには、どうぞ甘えさせてください。「甘やかす」とこと「甘えさせる」とことは、違います。何でも好きなものを買って与えるのは、「甘やかす」こと。子どもが不安で振り返ったとき、しっかり抱きしめる気持ちで接することが「甘えさせる」ことです。

甘えは、一言で言えば相手の愛情を求めることです。甘えが満たされるとき、自分は愛されていると感じ、愛される価値がある存在なんだ、と感じます。それが安心感に変わり、子どもの自立を促します。大人が、声かけの方法を少し変えるだけで、子どもは、素直に自分を振り返ることができます。

「悪いことをしたら叱る」「よいことをしたら褒める」当たり前のことですが、そのさじ加減で、子どもの伸びは変わってきます。下に、「がばい ばあちゃんの贈る言葉」を書きました。ご存じ、島田洋七さんの「がばい ばあちゃん」こと徳永サノさんの「子育て語録」です。子育てに悩む私たちに勇気を与えてくれます。

がばい ばあちゃん 子育て語録より

- ・「通知表は、0じゃなければええ。1とか2を足していけば5になる。人生は総合力ばい。」
- ・「『俺ってばかだな』とか今さら思うな。みんな知っているから安心して学校に早く行け。」
- ・「人に気づかれぬようにするのが本当の優しさ。本当の親切」
- ・「時計が左に回ったら、壊れたと思って捨てられる。人間も昔を振り返らず前へ前へ進め。」
- ・「自信をもちんしゃい。うちは、先祖代々貧乏だから。ちなみに貧乏五段、黒帯ばい！」
- ・「『おはよう』といえたら素晴らしい。『こんにちは』といえたらカッコいい。『いただきます』といえたら絶好調。『ありがとう』といえたら天才ばい！」
- ・「ぜいたくをすることだけが幸せじゃない。小さな幸せを大きく感じる事が本当の幸せばい。」



「何となく 今年はいい事あるごとし

元日の朝 晴れて風なし」 (石川啄木)

今年も本校への温かいご支援、ご協力をありがとうございました。どうぞ、どなた様も、よいお年をお迎えください。